

背景・目的

常に建築と敷地は表裏一体で関係しあい、同時になんの関係性も脈絡もない。私は、その場所になくってはならないものがそこに存在することが建築であってほしい。その建築がなかったら人間の生死までが脅かされるほどの影響力をもつなにか。そんな建築をつくりたいと考えた。現在、世の中には同じもの、似ているものが大量に蔓延っている。工業化された大量生産システムの中においては仕方のないことなのかもしれない。それはものでも映像でも空間でも同じ事が言える。私は建築と芸術だけはそうであって欲しくないと考えている。場所には力がある、状況には力がある。それをそのまま空間化したものが、建築であってほしい。その順序で建築を設計することにより、それは必ず"そこにしかないもの" "その状況でしか生まれないもの" といった強い結びつきを獲得した建築が生まれるはずである。そしてそれを設計することが本論文における目的である。



場所は東京都内にある奥多摩という場所で、東京の玉川上水の始まりである。都心から車で30分ほどにあり、東京とは思えない大きな自然が未だ残る場所。ダムのおおきさや立地条件等から小河内ダムをモデルとする。以下に詳細情報を記す。

ダム名 小河内（おごうち）ダム

ダム形式 重力式コンクリートダム

河川名／水系名 多摩川／多摩川水系

所在地 東京都西多摩郡奥多摩町原

位置 北緯35度47分23秒 東経139度03分03秒

着工年／完成年 1936年／1957年

用途 上水道用水／発電

堤高 149.0m

堤頂長 353.0m

堤体積 1,675,680 立方 m

流域面積 262.9 平方 km

湛水面積 425ha

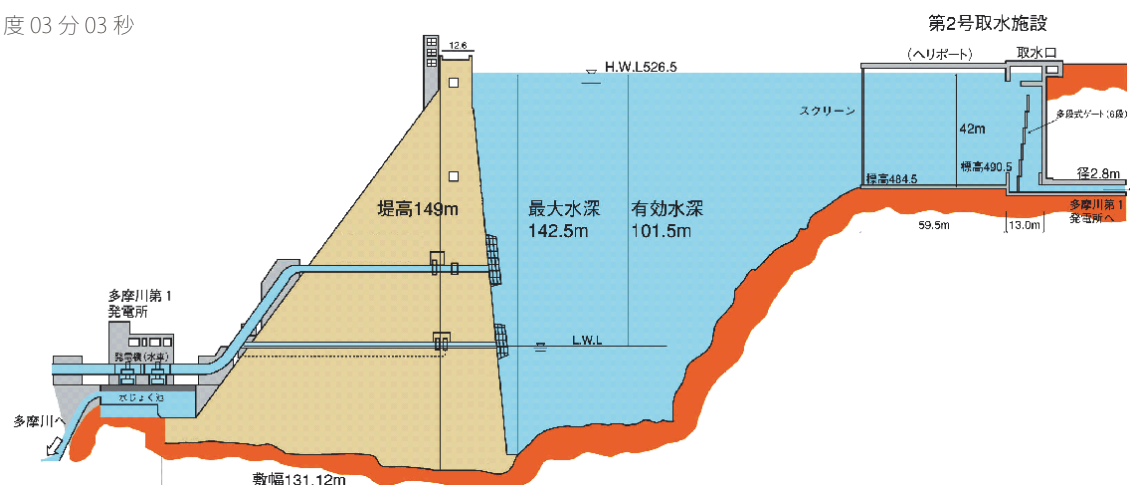
総貯水量 189,100,000 立方 m

有効貯水量 185,400,000 立方 m

ダム湖名 奥多摩湖

管理 東京都

本体施工者 鹿島建設



計画概要

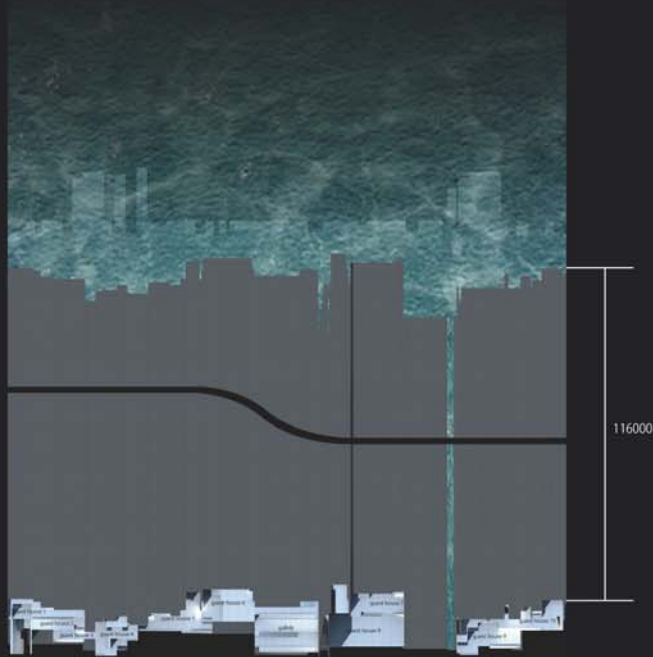
まず第一に目的を達成するにあたり、単一の視点、常に同じ方向からの眺めでは、存在するはずの素晴らしい景色も見落としてしまうだろう。最終的には土木における必要性和必然性を借りる形で最終成果物に落とし込んでいく。設計対象はダムで、敷地は東京都内にある奥多摩という場所にある。ダムを設計するにあたり、水圧、質量、重心等様々な避けられない問題が浮上する。そしてそれを問題ではなく、ダムという土木的スケールをもつ構造物を建築に変換していくための解決手段だと捉え、普遍的に生じる力学を相手に、大きな塊でしかなかった状態から、人が入り込める余地を創造することで、場所と状況との強固な結びつきをもった建築を設計した。



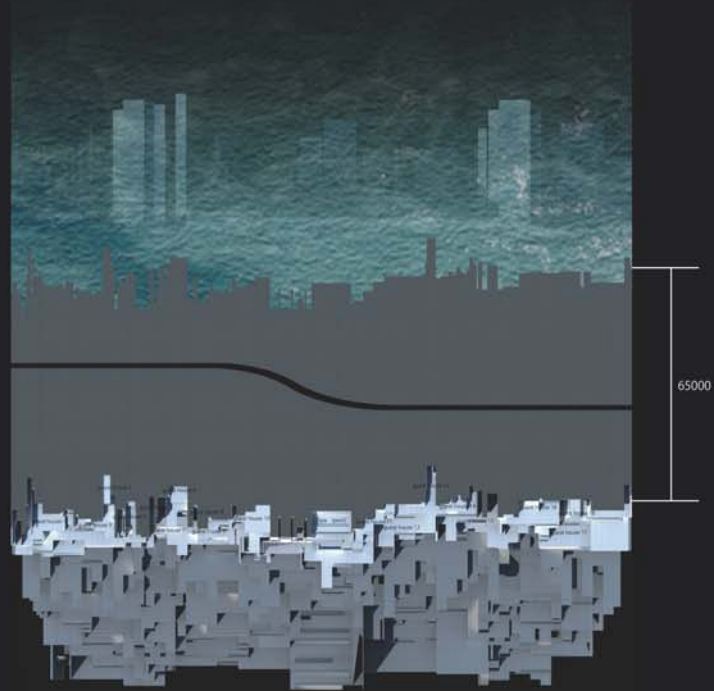
プログラム

現在もダムは様々な問題を抱えている。大きな問題のひとつとして山間にある窪んだ敷地に対して蓋をしてあげることで水瓶のようなものを大地で作り上げ、人工湖として治水や利水を目的として造られる。その際に窪んだ場所、山の麓というのは人間が住む場所としても用いられているケースが多いため、麓にある集落を水没させなければならない。それに伴い、集落に住む人々は住む場所を奪われ、山を下りなくてはならない現実がある。その他にも水質汚染、環境破壊など様々な問題が挙げられる。現在ダムと人間は水という問題を介して関係しているのみで、その関係は密接とは言いがたい。訪れるとしても観光目的がほとんどである。そこでダムを建築化するに伴い、人間が滞在していけるような施設を考えた。場所は東京都内にある奥多摩という場所で、東京の玉川上水の始まりである。都心から車で30分ほどにあり、東京とは思えない大きな自然が未だ残る場所。その場所に、ホテルを設計する。

赤色	主動線
紫色	駐車場
黄色	ロビー
ピンク、水色	レストラン
藤色	ギャラリー



PLAN 20m~

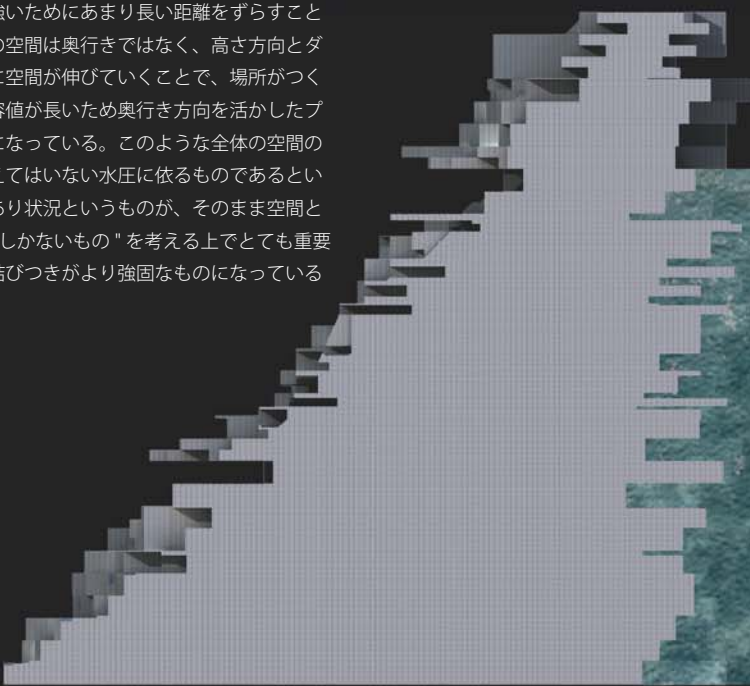


PLAN 70m~



断面図と水圧

断面構成としては後ろに控える水圧の影響を大きく反映した構成になっている。水圧は深さと比例関係になっている。そのためコンクリートの塊をズラす許容値も自動的に比例関係となり高度が下がれば水圧が強いためあまり長い距離をずらすことは出来ないで、下部の空間は奥行きではなく、高さ方向とダムに対して平行な方向に空間が伸びていくことで、場所がつけられ、逆に上部では許容値が長いので奥行き方向を活かしたプランニングと断面構成になっている。このような全体の空間の構成のようなものが見えてはいない水圧に依るものであるということは、その場所であり状況というもの、そのまま空間となって表出し、"そこにしかないもの"を考える上でとても重要であり、その状況との結びつきがより強固なものになっていると実感している。



SECTION

